

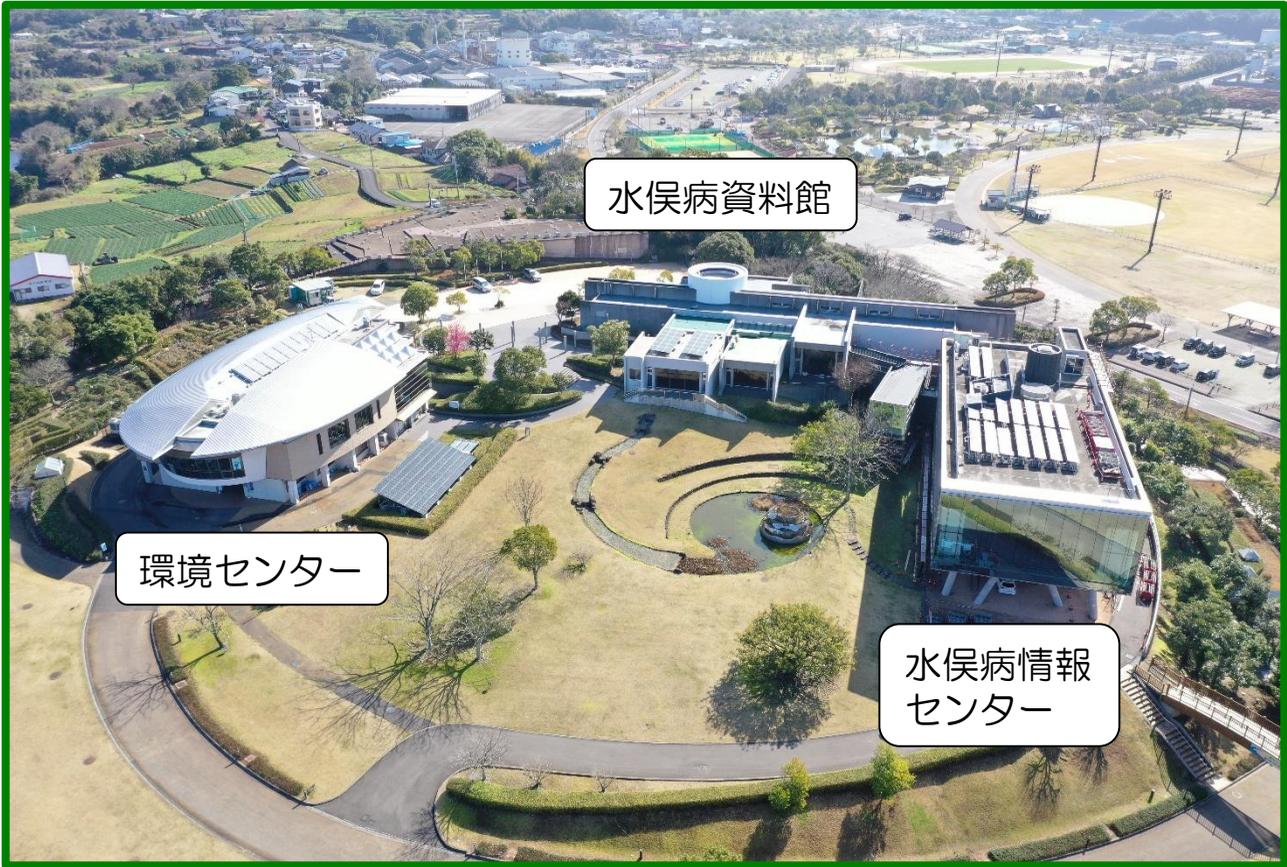
熊本県環境センター 環境教育指導者派遣制度のご案内

(令和5年(2023年)5月発行)

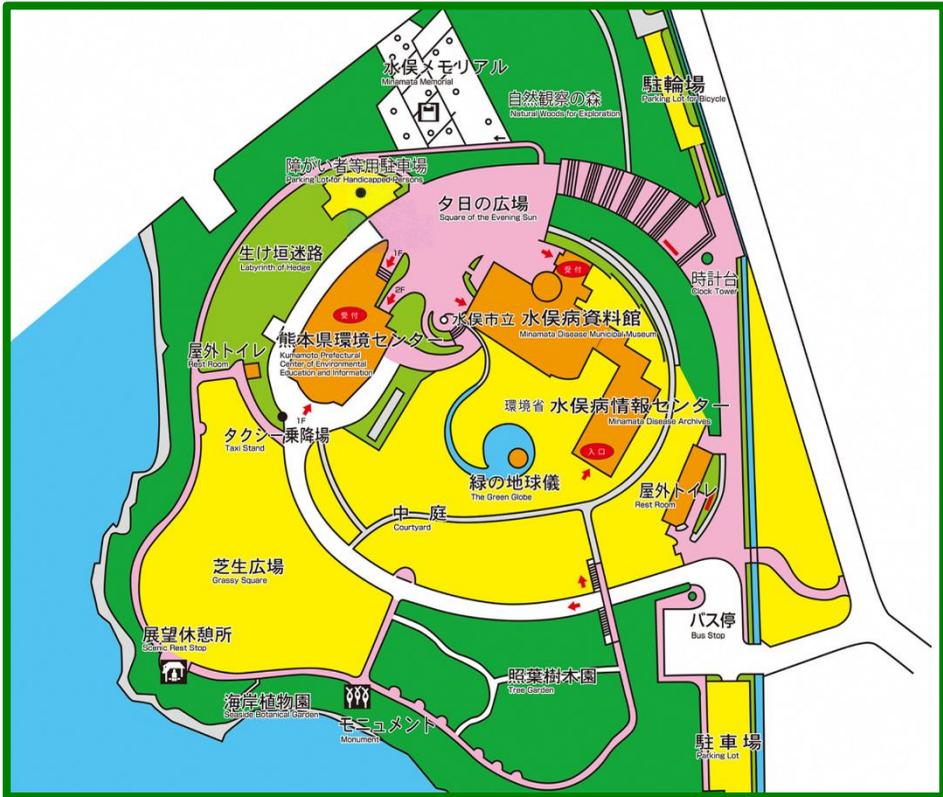


熊本県環境センター

熊本県環境センター



見取図



あいさつ

「熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度」は、県内の市町村や学校、各種団体などで実施する講演会や環境学習会、観察会といった環境教育の様々な取り組みを支援するため、環境センターから指導者を派遣するものです。

地球温暖化、熱帯雨林やオゾン層破壊、水質汚濁、資源循環の問題など、今、世界中の各地から様々な環境の危機が訴えられています。この先も人類が生存を続けていくためには、環境への負荷を小さくし、自然のサイクルに合わせた生き方をする以外にはありません。そのことを多くの人々、特に次の世代を担う子どもたちに、機会あるごとに訴え続けることが、私たちに課せられた責務です。一人ひとりに環境を守ることの大切さを考えさせ、環境を守る取り組みの第一歩を身近な場所から始めさせる、そのきっかけを作ることが環境教育の使命です。

この制度の実施については、現在県内の第一線で活躍中の専門家の方々にご協力をいただいております。どうか、この制度を積極的にご活用いただき、熊本県の環境教育が大きく推進されますことを心から願っております。

令和5年（2023年）5月

熊本県環境センター館長 篠原 亮太

目 次

あいさつ、目次	1
環境教育指導者派遣制度の概要	2
環境教育指導者派遣制度の仕組み	3
熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度設置要項	4
環境教育指導者一覧表	9
環境教育指導者の紹介	10

熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度の概要

1 環境教育指導者派遣制度とは

環境教育を推進するために、県内で実施される環境学習会や自然観察会などを対象として環境センターに登録された指導者を派遣する制度です。

2 派遣の対象となる講演会、学習会等

(1) 対象となる主催者

市町村、公民館、小・中・高校、各種学校、自治会、PTA、住民団体など

(2) 対象となる講演会、学習会、観察会等の内容

① 講演会、学習会

- ・地球環境問題や省エネルギー・省資源など環境の保全に関するもの
- ・野生動植物の保護など自然環境に関するもの
- ・水質の浄化やごみとリサイクルなど生活環境の維持や改善に関するもの

② 観察会（フィールドワーク）

- ・動物や植物及びこれら相互のつながりや環境との関わりなどに関するもの
- ・大気や水象・地象など環境に係わる観測や測定に関するもの

(3) 受講者数

概ね30人以上が参加する講演会、学習会、観察会等を派遣対象とします。

3 申請の手続き

(1) 環境教育指導者派遣のための申請

申請に先立ち、まず電話でどのような内容で派遣を希望するのかお知らせください。その後、実施予定日の4週間前までに申請書（様式第1号）に必要事項を記入し、**講演会等の日程のわかるものを添えて**、熊本県環境センターに提出してください。

(2) 環境教育指導者派遣決定通知

申請書を審査し、適当と認めたときは決定書（様式第2号）により通知します。

(3) 実施報告

主催者は、講演会、学習会などを実施した日から10日以内に、報告書（様式第3号）を熊本県環境センターに提出してください。

4 環境教育指導者への謝金など

環境教育指導者への謝金、旅費については熊本県環境センターが負担します。

5 申請及び問い合わせ先

熊本県環境センター

〒867-0055 水俣市明神町 55 番 1 号

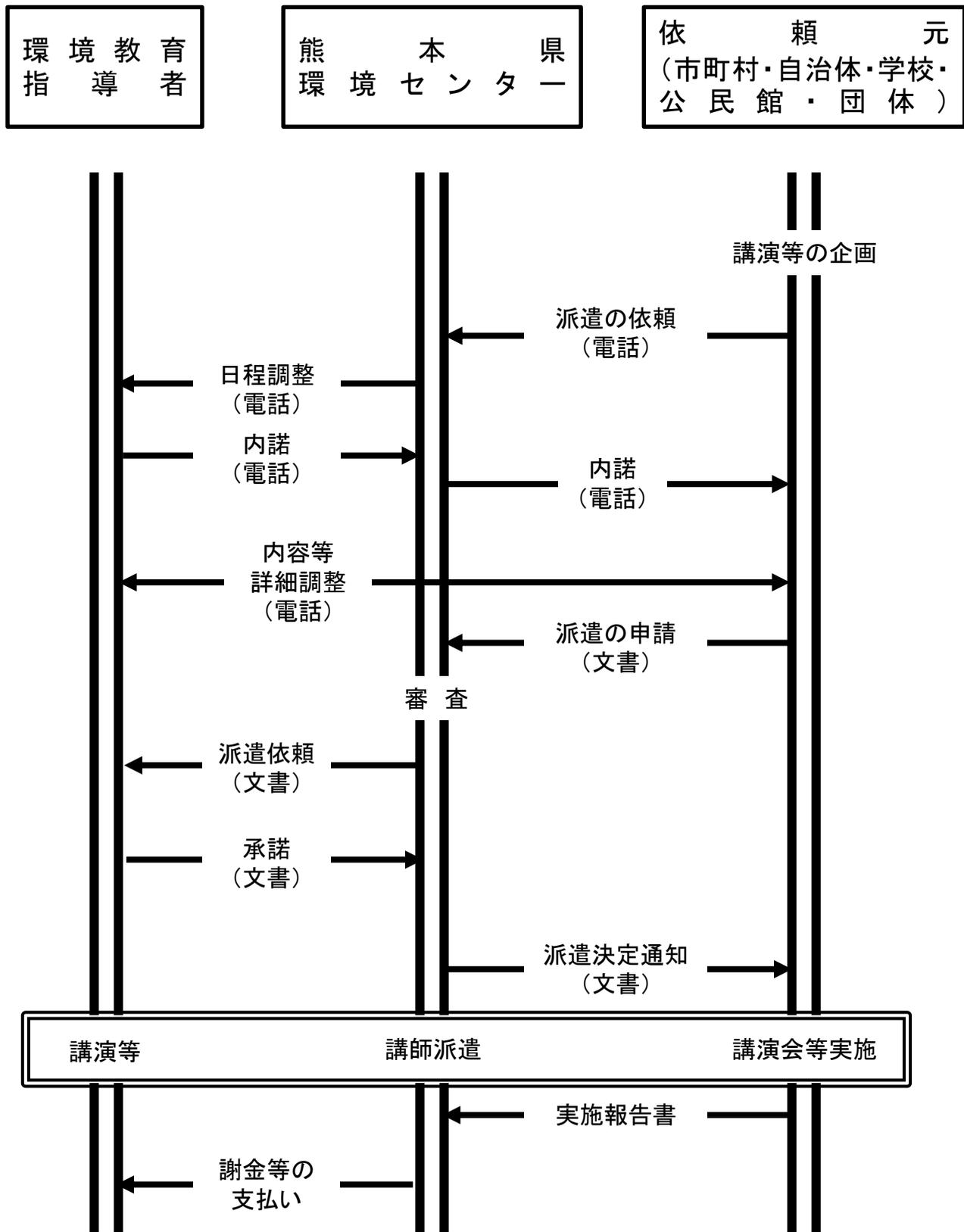
電話 0966-62-2000 FAX 0966-62-1212

E-mail kankyo-center@dance.ocn.ne.jp

HP <https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/50/51621.html>



環境指導者派遣制度の仕組み



熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度設置要項

(目 的)

第1条 熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度設置要項（以下「要項」という。）は、市町村、公民館、学校、自治体等が実施する環境に関する講演会、学習会、自然観察会（フィールドワーク）など（以下「講演会等」という。）に講師もしくは野外学習指導者（以下「指導者」という。）を派遣することにより、地域における快適な環境の保全及び創造に関する知識の普及や意識の高揚を図るとともに、環境教育の推進に資することを目的とする。

(委 嘱)

第2条 熊本県環境センター所長（以下「所長」という。）は、環境保全、自然環境、生活環境に関し、知識や経験を有する者を指導者に委嘱する。

(指導者の職務)

第3条 指導者は、この要項に基づき派遣された講演会等を通じて、快適な環境の保全及び創造に関する知識の普及と意識の高揚に努めなければならない。

(指導者の任期)

第4条 指導者の任期は原則3年とし、再任を妨げない。ただし、所長は、指導者が次のいずれかに該当するときは、当該指導者を解任することができる。

- (1) 辞任を申し出たとき
- (2) 死亡し、又は失そうの宣告を受けたとき
- (3) その他講演会等に派遣することが困難な状況にあり、その状況が今後も継続すると認められるとき

2 所長は、前項ただし書第1号又は第3号の規定により指導者を解任した場合、当該指導者に対し理由を付してその旨通知するものとする。

(派遣対象)

第5条 市町村、小・中・高等学校その他各種学校、自治会、PTA又は住民団体等が主催する講演会等で次に掲げる条件を満たすもののうち所長が第1条の目的に適合すると認めたものに指導者を派遣する。

- (1) 熊本県において開催されるもの
- (2) 熊本県民又は熊本県に勤務・通学するものを対象に開催されるもの
- (3) 受講者が概ね30人以上のもの
- (4) 政治、宗教及び営利を目的としないもの

2 所長は、特に必要と認めるときは、前項各号の条件にかかわらず、講演会等に指導者を派遣することができる。

(派遣申請)

第6条 指導者の派遣を希望する講演会等の申請者（以下「申請者」という。）は、実施予定日の4週間前までに環境教育指導者派遣申請書（様式第1号）により講演会等の日程のわかるものを添えて所長に申請するものとする。

(派遣の決定)

第7条 所長は、前条の申請書を審査のうえ適当と認めたときは、環境教育指導者派遣実施決定書（様式第2号）により申請者に通知するものとする。

(実施報告書)

第8条 申請者は、講演会等を実施した日から10日以内に、その概要を環境教育指導者派遣制

度実施報告書（様式第3号）により所長に報告しなければならない。

（謝金等）

第9条 熊本県環境センターは、環境教育指導者派遣制度事務取扱要領により、予算の範囲内で指導者に謝金及び旅費を支給する。なお、謝金は第6条の申請に基づく金額を支給上限とする。

付則

この要項は、平成 7年（1995年） 7月 7日から施行する。

付則

この要項は、平成14年（2002年） 4月 1日から施行する。

付則

この要項は、平成20年（2008年）10月 1日から施行する。

付則

この要項は、平成29年（2017年） 1月24日から施行する。

付則

この要項は、令和2年（2020年） 4月 1日から施行する。

付則

この要項は、令和3年（2021年） 4月 1日から施行する。

付則

この要項は、令和7年（2025年） 4月 1日から施行する。

(様式第1号)

環境教育指導者派遣申請書

令和 年 月 日

熊本県環境センター所長 様

申請者住所 (〒)

申請者名称

代表者氏名

連絡者氏名

電話番号 ()

F A X ()

E-mail ()

※メールアドレスが記載してある場合は、実施決定書はメールでの送信を基本とします。

熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度設置要項第6条の規定に基づき、次のとおり指導者の派遣を申請します。

派遣希望日時	令和 年 月 日 () (: ~ :) 屋内 (時間 分) 屋外 (時間 分)
講演会等の名称	
派遣希望場所 (住所、会場名等)	電話番号:
受講予定者数	人
希望する講演(活動)内容(具体的に書いてください) (題名等)	
(内容)	

環境教育指導者派遣実施決定書

環セ第 号
令和 年 月 日

様

熊本県環境センター所長

熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度設置要項第7条の規定に基づき、次のとおり行うこととします。

申請者	
実施日時	令和 年 月 日 () (: ~ :) 屋内 (時間 分) 屋外 (時間 分)
派遣指導者名 (連絡先)	
講演会等の名称	
実施場所 (住所、会場名等)	
受講者数	
講演(活動)内容 (題名等)	
(内容)	
注意	1 会場の予約、行事の進行及び参加者の安全管理については、主催者が責任を持って行ってください。 2 実施にあたっては、事前に必ず指導者と十分な打合せを行ってください。 また、指導者の個人情報の管理について注意してください。 3 実施にあたっては、熊本県環境センターの「環境教育指導者派遣制度」を利用していることを何らかの形で紹介してください。 4 当該日時の指導者に対する一定時間内の謝金及び旅費については、環境センターから支給します。 5 事業終了後10日以内に所定の実施報告書を提出してください。

(様式第3号)

環境教育指導者派遣制度実施報告書

令和 年 月 日

熊本県環境センター所長 様

申請者住所 (〒)

申請者名称 _____

代表者氏名 _____

連絡者氏名 _____

電話番号 ()

F A X ()

E-mail ()

熊本県環境センター環境教育指導者派遣制度設置要項第8条の規定に基づき、次のとおり報告します。

実施日時	令和 年 月 日 () (: ~ :) 屋内 (時間 分) 屋外 (時間 分)
派遣指導者名	
講演会等の名称	
実施場所 (住所、会場名等)	電話番号 :
受講者数	人
講演(活動)内容 (題名等)	
(内容)	
感想など(実施状況の写真を添付してください。)	

環境教育指導者一覧表

(順不同、敬称略)

No.	分野		名前	No.	分野		名前	
1	環境 保全	水環境科学・バイオマス利用	篠原 亮太	27	動物	動物全般	逸見 泰久	
2		水環境保全	小島 徹	28		哺乳類・両生類・爬虫類	坂本 真理子	
3		水環境保全・水環境工学	金子 好雄	29		鳥類	坂梨 仁彦	
4		水環境保全・地下水	川越 保徳	30		貝類	松本 達也	
5		水環境保全・地下水	田中 伸廣	31		水生生物	高松 安国	
6		水環境保全・地下水	村上 茂人	32		陸・淡水産貝類	西野 宏	
7		水環境保全・考古化学	中田 晴彦	33		海洋生物	堤 裕昭	
8		環境分析化学・水処理	古賀 実	34		海洋生物	森 敬介	
9	自然 環境	地質学	長谷 義隆	35		生態・水産・保全	山田 勝雅	
10		古生物・絶滅動物	北村 直司	36		昆虫	寺崎 昭典	
11		大気環境科学	張 代洲	37		自然 観察 その他	きのこ	鈴木 敏雄
12	生活 環境	生活環境全般	宮原 美智子	38			水生生物観察・水環境	小林 修
13		廃棄物利活用・バイオマス利用	鳥居 修一	39			自然観察全般	小田 文弘
14		資源循環	渡邊 輝樹	40			自然観察全般	中田 裕一
15		リサイクル手芸	高田 敦子	41	自然観察全般		藤吉 勇治	
16		建築構造・材料	林 美貴	42	草原での自然観察と学習		木部 直美	
17		消費者教育・食生活学	岩下 紀子	43	阿蘇の草原学習		市原 啓吉	
18		消費者教育	佐藤 彩己子	44	阿蘇の自然観察・草原学習		井上 真希	
19		消費者教育	田北 真美	45	里地・里山の自然体験		幸山 昌生	
20		SDGs・気候変動・防災	神田 みゆき	46	シェアリングネイチャー		福本 壽太郎	
21		植物	植物全般	小林 由美子	47		天文・気象	坂井 一郎
22	植物全般		山下 桂造	48	天体観測		榎藤 貴士	
23	植物全般・自然観察		前田 哲弥	49	天体観測		艶島 敬昭	
24	植物プランクトン		一宮 睦雄	50	天体観測		橋本 建司	
25	阿蘇地域の植物		瀬井 純雄	51	天体観測とプラネタリウム	稲葉 洋一		
26	人吉球磨地域の植物		乙益 正隆					

環境教育指導者 紹介

環境保全
(水環境科学・バイオマス利用)

No.1 しの はら りょう た
篠原亮太

昭和22年生まれ 熊本市在住
現在 熊本県環境センター館長
宇城市環境審議会会長
水保市環境審議会会長

<講演会・学習会テーマ例>
「熊本の水」「地球環境問題」
「廃棄物の現状」
「安全でおいしい野菜」

熊本県立大学名誉教授
菊池市環境審議会会長
熊本市環境審議会会長

主な研究課題は、水環境における化学物質の挙動と水の高度処理である。また、地球環境問題をはじめ、現代の抱える環境問題を環境保全の視点から解析する教育研究を行っている。社会活動の一環として、新エネルギー、バイオマス利活用を中心に地域での環境保全活動の支援も進めている。



環境保全
(水環境保全)

No.2 こ じま とおる
小島徹

昭和33年生まれ 熊本市在住
現在 (公財)肥後の水とみどりの愛護基金啓発事業部長
くまもと「水」検定1級、くまもと水守(呼称:水源涵養水守)

<講演会・学習会テーマ例>
「阿蘇が生んだ地下水のメカニズム」
「水循環と私たちの生活」

熊本地域をはじめ、県内各地の水供給のメカニズムを研究している。
水源かん養林の保全育成事業、水田湛水事業や湧水地を守るため水質調査に取り組んでいる。環境関連情報のSNSによる発信に注力し、教育旅行の講師を務めている。



環境保全
(水環境保全・水環境工学)

No.3 かね こ よし お
金子好雄

昭和26年生まれ 熊本市在住
現在 元東海大学産業工学部環境保学科 准教授
熊本学園大学 非常勤講師
江津湖研究会副会長
(一社)地域共生・資源活用協会理事
NPO法人白川流域リバーネットワーク代表理事
CONEトレーナー

<講演会・学習会テーマ例>
「川の水環境調査」
「多自然川づくりのすすめ」
「豊かな生態系としての水環境」

川、湖沼、地下水といった水環境の保全・復元に関する調査研究や、生活排水、産業排水などの生物学的処理に関する調査研究を行っている。
平成5年に第14回熊日出版文化賞受賞、平成15年に(社)日本水環境学会水環境文化賞受賞、平成17年に日本河川協会河川功労者賞受賞。
著書に「熊本発地球環境読本(共著)」、「くまもと水防人(さきもり)物語(共著)」等がある。



No.4 かわごしやすのり
川越保徳

昭和61年 宇部興産(株)宇部研究所研究員
平成3年 大阪市立環境科学研究所研究員
平成15年 熊本大学工学部助教授
平成23年 熊本大学大学院教授
現在 熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 教授
日本水環境学会 九州・沖縄支部長
日本水処理生物学会 編集委員、日本生物工学会会員、土木学会会員

〈講演会・学習会テーマ例〉
「水のおいしさについて」
「熊本の地下水水質について」
「微生物を利用する水処理について」



大学では衛生工学を専攻し、微生物による難分解性物質の分解に関する研究で博士学位を取得。民間企業にてSODという酵素を医薬品にすべく基礎研究に従事し、前職場の大阪市立環境科学研究所では、海も川も、きれいも汚いも関係なく、色んな“水”に含まれる微量有害物質の分析と除去の研究に関わった。熊大では、熊本が誇る地下水のおいしさの研究に始まり、水質の保全に関する研究に力を注いでいる。

No.5 たなかのぶひろ
田中伸廣

昭和23年生まれ 熊本市在住
平成25年 熊本県退職
現在 熊本県環境審議会水保全部会特別委員
元熊本県地下水保全アドバイザー
阿蘇ジオパーク専門家委員会委員
阿蘇火山博物館学術専門委員

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本の地下水・湧水巡り」
「阿蘇の恵み くまもとの地下水」



熊本県庁に入庁後、長年に渡り地下水の開発と保全の調査、研究、水質汚濁防止法に基づく公害防止、河川や海域の水環境監視等の環境・公害行政に従事。専門の地質の視点から、熊本の地下水をやさしく解説。
著書に、一の宮町史「阿蘇山と水」がある。

No.6 むらかみしげと
村上茂人

現在 環境カウンセラー
環境教育インストラクター

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本地震とわき水」
「熊本のわき水」



学校教育の中で「わき水を未来に残したい」という思いから、熊本県の水環境を調べ始める。現在、熊本市や益城町を中心に水質調査やわき水の歴史を調べたり、熊本地震とわき水の関係を調べたりしている。

No.7 なかたはるひこ
中田晴彦

平成10年 熊本大学理学部 助手
平成19年 熊本大学大学院自然科学研究科 准教授
現在 熊本大学大学院先端科学研究部 准教授

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本の地下水保全と人間活動」
「江湖とマイクロプラスチック」
「考古試料と化学分析」



環境試料に含まれる有害化学物質やマイクロプラスチックの分析法や環境動態の把握に関する調査研究を行っている。また、微量分析技術を考古試料に応用した歴史と化学融合型の研究も展開している。

No.8 古賀 実
このる

<講演会・学習会テーマ例>
「環境を測る」
「化学物質の毒性評価」

昭和47年～昭和54年 北九州市環境衛生研究所
昭和54年～平成9年 産業医科大学講師、助教授、
共同利用研究センター副センター長
昭和62年～平成元年 米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校 博士研究員
平成9年～平成26年 熊本県立大学
(助教授、教授、学生部長、副学長、学長)
平成13年～平成14年 英国プリマス大学 客員教授
現在 水俣環境アカデミア所長 (平成26年～)
熊本県立大学名誉教授



科学技術の進展に伴い多種類の化学物質が新たに製造され、我々の日々の生活の中で広く使われ環境中に拡散している。その中には環境中に長期間残留し、生態系に影響を及ぼす化学物質も知られている。環境中微量化学物質の分析法、環境動態、毒性評価方法などについて解説する。

No.9 はせ よし たか
長 谷 義 隆

<講演会・学習会テーマ例>
「熊本の大地の成り立ちを知る」
「自然環境の変遷を探る」

昭和16年生まれ 熊本市在住
元熊本大学大学院自然科学研究科教授
現在 天草市立御所浦白亜紀資料館名誉館長



地球科学、特に層序学、植物化石に基づく古環境解析が専門。九州の中部、南部の新生代後期の地史を整理。九州に産する植物化石を基にして古植生、古気候を把握し環境変遷を明らかにする。著書に「日本の地質9、九州地方」(分担)、「海にうかぶ博物館 天草ジオパーク」(編著)など。

No.10 きた むら なお し
北 村 直 司

<講演会・学習会テーマ例>
「サメの歯化石」「ゾウ化石」
「ニホンオオカミとツキノワグマ」
「フズリナ」「アンモナイト」

昭和29年生まれ 熊本市在住
平成26年 熊本博物館学芸員(地質)退職
現在 日本古生物学会会員
サメの歯化石研究会会員
博士(理学)



サメの歯化石を専門的に研究。その他、有明海から揚げられたゾウ化石、洞窟から発見されたニホンオオカミやツキノワグマ、フズリナ化石そして、アンモナイトについても調査を進めた。観察会や講座も数多く経験。

No.11 ちょう だい しゅう
張 代 洲

<講演会・学習会テーマ例>
「熊本の大気環境」
「東アジアの大気汚染」
「黄砂とその環境への働き」

昭和40年生まれ 宇土市在住
平成8年 中国北京大学研究助手
平成11年 熊本県立大学専任講師
現在 熊本県立大学教授
熊本大学非常勤講師



東アジア地域の大気環境問題を取り上げ、気象学や大気汚染及び気候変動などの立場から大気環境に関する研究教育を行っている。主な研究課題は、大気汚染物質の変質過程とその環境影響である。平成17年日本エアロゾル学会奨励賞受賞。

生活環境
(生活環境全般)

みや はら みちこ
No.12 宮原美智子

〈講演会・学習会テーマ例〉
「地球温暖化と私たちの暮らし」
「地球温暖化と異常気象」「地球のもしにも備える」
「世界・日本の地球温暖化の現状と暮らし」
「地球と子どもたちの未来のためにエンカルくらしをしよう」
「熊本とモンゴルから地球の未来を考える」

昭和33年生まれ 熊本市在住
昭和56年 熊本県公立学校教員(昭和61年まで)
平成10年 財団法人省エネルギーセンター主催第一回「わが家の省エネ実践コンクール」
優秀賞受賞
現在 NPO法人九州環境サポートセンター 理事
一般財団法人くまもと未来創造基金 理事
公益財団法人 熊本上下水道サービス公社 理事
公益財団法人 肥後の水と緑の愛護基金 評議員
クライメート・リアリティ・リーダー
「熊本×モンゴルプロジェクト」担当 暮らし手仕事まあむ代表

財団法人全国女の会において、生活全般にわたって適量の生活(エコライフ)省エネを实践。その後熊本県(熊本市)地球温暖化防止活動推進センター・省エネルギーセンターでの県内及び九州の中学校高校・一般市民・企業・行政関係者への「家庭の省エネアドバイス」、「体験型出前講座・環境教育」「省エネ調理」「地球温暖化とくらし」に関する講演などを行う。現在、「熊本×モンゴルプロジェクト」モンゴル植林活動を通して、環境問題と自分たちの暮らしを考える活動を行う。



生活環境
(廃棄物活用・バイオマス利用)

とり い しゅう いち
No.13 鳥居修一

〈講演会・学習会テーマ例〉
「有機系廃棄物を含むバイオマスを用いた再生可能性
エネルギー創出」
「燃焼灰の有効利用について(人工漁礁への応用。
路盤材への活用)」

平成5年 鹿児島大学工学部助教授
平成15年 熊本大学工学部教授
現在 熊本大学大学院先端科学部教授
National Institute of Technology Karnataka (India) 客員教授
ALVA's Institute of Engineering and Technology (India) 客員教授
REVA University (India) 客員教授
Vel Tech Institute (India) 非常勤教授
Southern Taiwan University of Science and Technology (Taiwan) 客員教授
一般社団法人九州脱炭素都市創出ユニット 副代表理事
所属団体 日本機械学会、日本伝熱学会、可視化情報学会、化学工学会、空気調和衛生工学会、
日本エネルギー学会

大学では核エネルギーを専攻し、核燃料棒周りの熱流動特性に関する研究で博士学位を取得。米国科学財団の支援でミシガン大学で連続精錬システムに関する基礎研究に従事し、鹿児島大学工学部機械工学科では、各種回転機器や燃料機器の熱と流動に関して数値解析で解明する研究に関わった。熊本大学では、畜産系廃棄物等からの再生可能エネルギー創出のための機器の開発及びその熱流動特性に関する研究に従事している。



生活環境
(資源循環)

わた なべ てる き
No.14 渡邊輝樹

〈講演会・学習会テーマ例〉
「家電リサイクル、小型家電リサイクルの現状」
「金属・プラスチックのリサイクルのしくみ」
「みなまたの環境への取り組み」

昭和39年生まれ 熊本市在住
現在 (元)みなまたエコタウン協議会会長
(元)アクトビーリサイクリング(株)専務取締役
環境管理士
アスベスト診断士

家電リサイクル事業を中心として、リサイクルや資源循環に20年以上携わっており、中国での勤務も経験している。ビジネス等に関連した実例を紹介しながら、環境リサイクルの「いま」を伝えたい。



生活環境
(リサイクル手芸)

たか だ あつ こ
No.15 高田敦子

〈講演会・学習会テーマ例〉
「簡単・楽しい・リメイク遊び」
裂き織り・布ぞうり・草木染
着古しニットや米袋もおしゃれに変身!

昭和32年生まれ 熊本市在住
手織り・裂き織り教室 織好SUN主宰
一般財団法人 生涯学習開発財団・認定
日本染織協会 公認インストラクター
NHK熊本文化センター講師

現代の便利で快適な暮らしが不自然であることを自覚し、少ないもので豊かに暮らしていた先人の智慧に学びながら、自然の循環をせき止めない人間本来の生き方を目指す「意識的不便主義」を提唱している。



はやし み き
No.16 林 美 貴

昭和27年生まれ 熊本市在住
 昭和50年 熊本工業大学建築学科助手
 平成12年 崇城大学工学部建築学科講師
 平成29年 崇城大学工学部建築学科准教授
 現在 日本建築学会九州支部構造委員会委員
 熊本県耐震判定委員
 熊本市行政区画等審議会委員 熊本県収用委員会委員
 熊本市公共事業再評価監視委員会委員 熊本市入札監視委員会委員
 上天草市入札監視委員会委員長
 (一社)日本建築学会会員 (公社)日本コンクリート工学会会員 (公社)地盤工学会
 (公社)日本建築積算協会会員 建築コスト管理士
 (公社)日本建築積算協会九州支部相談役

〈講演会・学習会テーマ例〉
 「自然環境と建築材料の可能性」
 「建築と自然環境」
 「わたしたちと建築と自然環境」



大学では、「建築構造力学」や「実務建築学実習・建築積算」「建築基礎構造」「建築構造・材料実験」を担当していた。研究活動においては、建築材料の県産材活用のより高い効率化を目指した実験研究や、環境負荷の小さい材料による地盤改良土壌固化材の開発に関する実験研究を行っている。

いわ した のり こ
No.17 岩 下 紀 子

平成元年～平成31年 熊本県高等学校勤務
 現在 尚綱大学短期大学部総合生活学科教授
 熊本家庭科消費者教育研究会会長

〈講演会・学習会テーマ例〉
 「学校現場における消費者教育」
 「SDGsと消費者市民社会」
 「これからの社会に必要な消費者の力
 ～私たちの食生活と環境～」



「何を選んでどのように食べるか」等、いつも考えていることですが、その意思決定をどのようにするかで、自分の健康や命だけでなく、社会も大きく変わります。持続可能な社会を形成していくために、私たちはどのような力をつける必要があるか、食生活における具体的な事例を通して考えましょう。

さ とう あつ こ
No.18 佐 藤 彩 己 子

平成15年～21年 熊本市エコスクール化事業「買い物ゲーム」採択
 平成17年 環境省チームマイナス6%事業「エコクッキング」採択
 平成18年 熊本県パートナーシップ創造事業「エコクッキング」採択
 平成15年 第12回熊本県「くまもと環境賞」個人部門受賞
 平成28年 こども食堂「寺子屋カフェ」主宰
 (DV・児童虐待支援、シママキッズ支援、コロナ災禍困窮者支援)
 略歴 環境NPO「緑の生活(くらし)ネットワーク」事務局長
 熊本県国土利用計画審議会委員
 熊本県地球温暖化防止活動推進員
 熊本県生物多様性くまもと戦略検討委員会

〈講演会・学習会テーマ例〉
 体験学習「買い物ゲーム」「エコクッキング」
 体験学習「大好評☆家計の節約術」「食育と実験」
 「わたしたちのくらしと環境問題(地球温暖化)」



ガス・水道・電気代の節約術、ごみ減量の方法・冷蔵庫の管理術、環境保全型せっけん・洗剤・防腐剤などの見分け方実験等、親子や学校で“楽しみながら取り組む消費者教育”。

地域の市民団体、自治体、教職員、社員を対象にした研修会やワークショップ講座。

た きた ま み
No.19 田 北 真 美

昭和45年生まれ 八代市千反町在住
 現在 日本カイロプラクティック師協会準会員
 熊本県地球温暖化防止活動推進員
 熊本県育木インストラクター
 熊本大学木育推進員上級
 ダンボールコンポストアドバイザー

〈講演会・学習会テーマ例〉
 「生ゴミリサイクル ダンボールコンポスト」
 「体からみた環境と食育」
 「竹を使った工作」体験
 野外炊飯、石臼体験、ダッチオーブンなど



身近にECOを実践できる、生ゴミリサイクル。自然活動の中での木育や野外調理。生きていく上で大切な食を通して体を知る。普段の何気ない生活がなぜ環境問題と結びつくのか様々な視点からわかりやすくお話しします。また、ひき石臼を使った体験を行い、昔の道具のすばらしさ、現在のエネルギーの大切さを知ってもらおう。

かん だ
No.20 神 田 みゆき

〈講演会・学習会テーマ例〉
「SDGs達成のために私たちができること」
「地球温暖化について考える」
「ESD・SDGs教育について」

略 歴 中学校教諭 (理科)
高等学校講師 (化学・地学)
熊本市教育委員会 社会教育主事
環境省 環境カウンセラー・環境教育インストラクター
SDGs各種カードゲーム公認ファシリテーター
熊本県くまもと環境教育賞受賞
現 在 Universe Quest (代表)
NPO法人SDGs Association 熊本 (代表理事)
熊本県地球温暖化防止活動推進センター (センター長)
くまもとSDGs推進財団 (評議員)

元中学校理科教諭。2017年より対面でおよそ3万人にSDGsを伝える。熊本市教育委員会の社会教育主事を経て、SDGsのキーワードで、枠を超えて様々な立場の方を繋いでいきたいと考え公務員を退職。様々な学校や行政、企業などで講演などを行っている。



こ ばやし ゆ み こ
No.21 小 林 由 美 子

〈講演会・学習会テーマ例〉
「生き物とのコミュニケーションについて(動物、植物)」
「子猫の生態」
「笑顔を呼べる手引き」

現 在 熊本県自然ふれあい指導員
熊本県自然観察研究会会員

グローバルなネットワークを通じて、世界的環境問題について情報交換を実施 (原子力問題(仏)、コロナウイルス対策(米)、子猫の命を救う為の手引書翻訳)。身近な植物観察会を実施。



やま した けい ぞう
No.22 山 下 桂 造

〈講演会・学習会テーマ例〉
「校庭の植物観察」
「山野の植物観察」

現 在 玉名市議会議員
熊本県希少野生動植物検討委員会調査員
熊本記念植物採集会理事
野生生物研究会会員
小岱山自然観察会主催者

平成20年より小岱山で自然観察会を毎月おこなっています。月ごとに変化していく自然を楽しみながら、自然について考えを深めています。何がそこにあるかではなく、なぜそこにそれがあるかを考える面白さを知りました。



まえ だ てつ や
No.23 前 田 哲 弥

〈講演会・学習会テーマ例〉
「身近な植物観察会」
「水辺の植物観察会」

現 在 博物館ネットワークセンター博物館活動嘱託員 (植物)
日本植物分類学会会員
自然観察指導員熊本県連絡会会員
すげの会会員

普段は博物館施設で、植物に関する調査・研究、展示、講座、体験学習を担当。身近な植物をとおして、自然を知り、親しむ機会づくりを目指します。



植

(植物プランクトン)

No.24 一宮 睦雄

〈講演会・学習会テーマ例〉
「植物プランクトンの生態」
「赤潮プランクトンの生活史」
「スイゼンジノリの保全」

昭和50年生まれ 熊本市在住
平成23年 熊本県立大学環境共生学部講師
平成28年 熊本県立大学環境共生学部准教授
令和2年～ 熊本県立大学環境共生学部教授
現在 日本海洋学会会員
日本プランクトン学会会員
日本藻類学会会員
不知火海・球磨川流域圏学会会員

主に顕微鏡観察による、植物プランクトン(微細藻類)の生態や生活史に関する研究を行っている。有明海、八代海を含む九州周辺の沿岸域、親潮・黒潮などの外洋域、またスイゼンジノリが生育する淡水域で研究を行っている。



植

(阿蘇地域の植物)

No.25 瀬井 純雄

〈講演会・学習会テーマ例〉
「阿蘇の自然」
「阿蘇の草原植物の現状と草原再生」
「身近な植物を観察しよう」

昭和32年生まれ 阿蘇郡南阿蘇村在住
現在 南小国町立中原小学校校長退職
熊本県希少野生動植物検討会委員
阿蘇市ASO環境共生基金 運用委員会 委員
認定NPO法人阿蘇花野協会専務理事

阿蘇郡市内の小中学校で教鞭を取るかわら、阿蘇の草原植物、特に大陸系遺存植物の分布や生態を研究。県の希少野生動植物調査、環境省絶滅危惧植物調査では阿蘇地域の植物を担当。



植

(人吉球磨地域の植物)

No.26 乙益 正隆

〈講演会・学習会テーマ例〉
「土木工事における自然環境保全」
「動植物の自然環境の保全」
「身近な植物と自然環境」

昭和6年生まれ 人吉市在住
平成3年 人吉市立中原小学校校長退職
現在 環境省希少野生動植物種保存推進員
植物分類地理学会会員 日本シダの会会員

人吉球磨地方の植物研究の第一人者。アソシケンダ、ナンビイノデなど多くの新種を発見。著書に「球磨の植物民俗誌」、「球磨の草木ばなし」、「熊本植物方言と民俗」、「草花あそび虫あそび」、「球磨・人吉地方植物誌」など。平成24年に「熊本県シダ植物誌」出版。平成5年熊本県環境賞、平成7年野生生物保護功労賞受賞。H14調査学術研究部門環境大臣賞受賞。H15全日本河川功労賞受賞。H22九州地方森林管理局より感謝状。R5林野庁より感謝状。



動

(動物全般)

No.27 逸見 泰久

〈講演会・学習会テーマ例〉
「有明海・八代海の生物多様性」
「レッドデータブック」
「水産資源の保全と持続的利用」

昭和33年生まれ 菊陽郡(大津町)在住
平成10年 熊本大学理学部合津臨海実験所講師
現在 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 教授
熊本県希少野生動植物検討委員
環境省モニタリングサイト1000委員
上天草市環境審議会会長

専門は、干潟・浅海を中心とした沿岸生態学。研究課題は、「底生動物の生活史および行動生態」で、特に甲殻類や貝類を対象とする。著書「干潟の絶滅危惧動物図鑑」、「豊穰の海・有明海の現状と課題」、「肥後ハマグリ資源管理とブランド化」(共著)



動物 (哺乳類・両生類・爬虫類)

No.28 さかもとまりこ
坂本 真理子

〈講演会・学習会テーマ例〉
「水田と人と生きもの」
「空飛ぶ哺乳類たち」
「野生動物とプラスチックごみ」

昭和32年生まれ 阿蘇郡西原村在住
現 在 九州両生爬虫類研究会 事務局長
熊本県希少野生動植物検討委員
ビオトープ管理士 (計画1級、施工1級)
環境カウンセラー (環境省)、博士 (理学)

専門は、小型サンショウウオ類の分類・生態。両生類と哺乳類の調査・研究を長年おこなっている。大事にしたいことはそれぞれの地域の生物多様性と特性。今もつとも力を入れているのは小学生や幼児の環境学習。



動物 (鳥類)

No.29 さかなしまさひこ
坂梨 仁彦

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本の野鳥」
「里山の自然観察」
「鳥たちの超能力」

昭和31年生まれ 熊本市在住
現 在 日本野鳥の会熊本県支部副支部長
日本鳥学会会員

日本野鳥の会熊本県支部の副支部長を勤めるなど、熊本の野鳥保護を縁の下から支えている。県内各地での野鳥観察会を指導するなど経験も豊富。



動物 (貝類)

No.30 まつもと たつ や
松本 達也

〈講演会・学習会テーマ例〉
「貝類から見た動物多様性」
「陸貝から見た環境指標(自然度)」
「熊本県内における外来種(貝類)の現状と生態系への影響」

昭和31年生まれ 熊本市在住
昭和54年～56年 深海貝類の調査研究 (東海大学)
平成15年 オフィスマイマイ (貝類研究所) を設立
現 在 日本貝類学会会員
熊本県希少野生動植物検討委員会調査員

貝類の調査研究を行っており、熊本県博物館ネットワークセンターの収蔵標本の同定、登録を行っている。

普及啓発活動も行っており、熊本県博物館ネットワークセンターの「貝のふしぎ展」の企画監修や、観察会の講師を務めている。



動物 (水生生物)

No.31 たかまつやすくに
高松 安国

〈講演会・学習会テーマ例〉
「川の生き物たち」
「川の環境指標動物」

昭和30年生まれ 熊本市在住
現 在 熊本生物研究所 研究員

熊本県内河川における水生生物の研究。河川における生物相の研究。



動物

(陸・淡水産貝類)

No.32 にし の ひろし
西 野 宏

〈講演会・学習会テーマ例〉
「熊本の陸・淡水産貝類」
「小動物のケミカルシグナル」
「海洋生物に潜む化学物質(毒成分)」など

昭和30年生まれ 熊本市在住
現在 熊本大学大学院先端科学研究部基礎科学部門化学分野特任教授
日本化学会会員、有機合成化学協会会員
熊本県希少野生動物植物検討委員会委員
日本貝類学会会員、九州貝類談話会会員

専門は有機化学で、天然に広く存在する複素環化合物骨格の合成。生物活性物質である「薬」や「毒」に興味がある。また、陸産貝類や淡水産貝類の分布や生態調査も行っている。主な著書(共著)に「大学生 これから学ぶ化学」(2023)、「レッドデータブックくまもと2019」など。



動物

(海洋生物)

No.33 つつみ ひろ あき
堤 裕 昭

〈講演会・学習会テーマ例〉
「有明海生態系の異変とその原因」
「干潟生態系のしくみ」
「沿岸漁業の問題点と対策」
「マイクロバブルによる曝気技術の水産養殖への利用」
「酸素マイクロバブル利用による農産物生産性の向上」

昭和31年生まれ 熊本市在住
昭和62年 熊本県立女子大学助教授
平成4年 熊本県立大学生活科学部助教授
平成11年 熊本県立大学環境共生学部教授
平成30年 熊本県立大学副学長
令和4年 熊本県立大学学長

専門は、海洋生態学、沿岸環境学。研究課題は有明海の生態系、アサリの生態と漁業、イトゴカイの生態、水産増養殖環境、有機汚泥浄化、マイクロバブルなど。



動物

(海洋生物)

No.34 もり けい すけ
森 敬 介

〈講演会・学習会テーマ例〉
「海の生きもの:有明海、八代海、天草の生物多様性」
「沿岸生態系の保全再生」
「水銀の話:水俣湾の生きものを中心に」

昭和32年生まれ 宇土市在住
現在 ひのくにベントス研究所 所長
熊本県希少野生動物植物検討委員会委員

ベントス(底生無脊椎動物)全般を対象として日本各地の沿岸域の様々な生態系(岩礁、転石、干潟、塩性湿地、浅海域)で生物群集の生態学的研究を行っている。熊本県のレッドデータブック(海洋動物)作成を担当すると共に、熊本県における希少生物の保護や沿岸環境保全活動を行っている。主要著書に「干潟ベントスフィールド図鑑」、「フジツボ類の最新学」、「レッドデータブックくまもとシリーズ」などがある。



動物

(生態・水産・保全)

No.35 やま だ かつ まさ
山 田 勝 雅

〈講演会・学習会テーマ例〉
「藻場・干潟・海草場の生物多様性:保全と水産」
「生物多様性をなぜ守らないといけないのか?」
「沿岸生物の観察会」

合志市在住
平成22年 千葉県水産総合研究センター 研究員
平成23年 (国研) 国立環境研究所 特別研究員
平成25年 (国研) 水産研究・教育機構 西海区水産研究所 研究員
現在 熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 准助教

専門:沿岸生態学、多様性科学、水産科学。干潟・藻場・海草場や河口などの人間にとってなじみ深い沿岸域に生息する生物種(魚介類や甲殻類)や生態系に関する研究を行っている。自然・環境から享受できる水産物などの恩恵と、人間社会とのより良い共生関係に新しい視点をもたらすことを目指している。



動

物 (昆虫)

No.36 寺崎昭典

〈講演会・学習会テーマ例〉
「昆虫教室」
「生物多様性」
「昆虫の不思議」

昭和23年生まれ 熊本市在住
現在 合同会社 フィールドリサーチ代表
河川・水辺の国勢調査アドバイザー
熊本県希少野生動物植物検討委員 (昆虫班代表)
流水型ダム環境保全対策検討委員 (川辺川)

専門は蝶類・トンボ類の生態・分類。熊本県のレッドデータブック(昆虫)に関する調査・作成。



自然観察その他

(きのこ)

No.37 鈴木敏雄

〈講演会・学習会テーマ例〉
「きのこ観察会」
「きのこの形態と生態」
「きのこの役割と働き」
「食用・薬用・毒きのこ」

昭和22年生まれ 合志市在住
現在 熊本きのこ会 顧問

きのこ好きの集まり、熊本きのこ会の仲間と、熊本県内を中心に、きのこを調べている。不思議な形をしたもの、美しい色を持ったもの、いい匂いがするもの、飛び上るほど辛いものなど様々であり、今日はどんなきのこに出会えるのだろうかと心躍らせて森や林へ出かけている。



自然観察その他

(水生生物観察・水環境)

No.38 小林修

〈講演会・学習会テーマ例〉
「校庭内のビオトープ構築」
「感性を身につける手法」
「県内の生きものの生態調査とその対策」

昭和22年生まれ 合志市在住
平成5年 くまもと環境賞受賞 (個人)
平成7年 熊本県河川愛護功労受賞 (団体)
平成11年 地域環境保全功労者受賞 (環境庁長官表彰)
現在 国土交通省河川アドバイザー
環境省環境カウンセラー
熊本県自然観察研究会代表
熊本県自然ふれあい指導員
環境教育アドバイザー
NHK総合ラジオレポーター
熊本県ほたる研究会会長 (生態・分壊)
熊本市乳幼児パパ・ママ教室講師 他

環境調査や自然観察、講演会の講師として県内各地で活躍している。環境教育アドバイザーとして、学校からの依頼を受け、小中学生への環境教育を行っている。



自然観察その他

(自然観察全般)

No.39 小田文弘

〈講演会・学習会テーマ例〉
「宇土半島の自然と生物」
「生物と自然環境」
「野外で生物を観察しよう」など

昭和30年生まれ 宇土市在住
平成2年 NHK学園「自然観察講座」講師
平成3年 YMCA学院環境教育学科担当
現在 元自然観察指導員熊本県連絡会会長

NHK「くまもと博物誌」KKT「熊本の自然点検」などに出演。山から川、海までの生態系の保全を訴えて、環境教育指導、自然観察会など幅広く自然保護教育活動を行っている。グリーンアドバイザー。



なか た ゆう いち
No.40 中 田 裕 一

〈講演会・学習会テーマ例〉
「里山の自然観察」
「川の水環境を調べよう」

昭和38年生まれ 八代郡氷川町在住
現 在 宇城市立豊福小学校教諭
自然観察指導員熊本県連絡会副会長
森林インストラクター(全国、熊本県)

身近な森林の植物観察や河川の水生生物調査、体験林業の指導員として活動している。特に、子どもたちの環境教育に力を入れている。(緑の少年団、子ども会活動)



ふじ よし ゆう じ
No.41 藤 吉 勇 治

〈講演会・学習会テーマ例〉
「里山の自然」

昭和29年生まれ 上益城郡山都町在住
現 在 矢部郷自然観察会会長
熊本県自然保護関係団体協議会会長

地域の身近な自然をもっと良く知ることを目的に矢部郷自然観察会を発足させ、特に子どもたちの自然観察や環境教育に力を入れている。



き べ なお み
No.42 木 部 直 美

〈講演会・学習会テーマ例〉
「阿蘇の草原で見られる植物や動物について」
「草原と人々の営みとの関係について」
「子どもたちの草原環境学習の実践例や進め方について」

昭和43年生まれ 阿蘇市在住
平成20年 アメリカのエバーグレーズ国立公園でインターン
平成21年～25年 環境省アクティブレンジャーとして阿蘇で勤務
平成25年～27年 (一財)自然公園財団阿蘇支部「自然ふれあい担当」
現 在 (公財)阿蘇グリーンストック

阿蘇の草原を未来に引き継いでいくため、地域の子どもたちや来訪者を対象に草原について伝える活動を展開中。阿蘇の草原を紹介する出前講座や草原での自然観察会を行っている。



いち はら けい きち
No.43 市 原 啓 吉

〈講演会・学習会テーマ例〉
「阿蘇の草原について学ぼう」
「体験野焼きを学ぼう」
「阿蘇の草原キッズになろう(春編/秋編)」

昭和25年生まれ 阿蘇市在住
昭和45年 派遣農業研修生として渡米
昭和47年 帰国後農業に従事
平成12年～ 阿蘇市一の宮町町古閑牧野組合組合長
平成21年～ 阿蘇市生涯学習講座講師
現在に至る

平成12年より地元小中学校、高校等の草原学習や体験の場として取り組み、全国各地より訪れる小、中、高校生の修学旅行生の希望に応じ、草原学習や作業体験、牛馬の触れ合い体験や自然観察に取り組む。平成21年からは「草原を歩いて阿蘇の宝を見つけよう」講座の講師として勤務。



自然観察その他
(阿蘇の自然観察・草原学習)

いの うえ ま き
No.44 井 上 真 希

昭和55年生まれ 阿蘇郡高森町在住
平成17年～29年 阿蘇くじゅう国立公園南阿蘇ビジターセンター
自然ふれあい担当
現 在 一般社団法人高森観光推進機構事務局長
熊本県自然ふれあい指導員
自然観察指導員熊本県連絡会会員
日本野鳥の会熊本県支部会員

鹿児島出身、2児の母。阿蘇で暮らす人の営みが育む生物多様性をテーマに、オオルリシジミ観察や草こづみ作りの草原環境学習に取り組む。庭先などの身近な生きものから絶滅危惧種まで、あらゆる生きものの命のつながりを大切に、子どもたちと地域の宝さがしを楽しんでいる。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「オオルリシジミ～草原の小さな花からもの～」
「阿蘇の草原ものしり博士になろう」
「わくわくいっぱい！阿蘇の生物多様性」



自然観察その他
(里地・里山の自然体験)

こう やま まさ お
No.45 幸 山 昌 生

昭和35年生まれ 八代市在住
現 在 九州森のようちえんのつどい代表
森林インストラクター
ネイチャーゲームインストラクター
シェアリングネイチャーウェルネスガイド

幼児の豊かな感性を育む「森のようちえん」、子どもから大人まで誰もが五感を使って自然とふれあい、わかちあう「ネイチャーゲーム」。このような活動を通して自然と人とのつながりを指導している。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「自然とふれあう子育て～幼少期の自然体験～」
「野外保育指導者養成講座」
「日本とドイツの森のようちえん」



自然観察その他
(シェアリングネイチャー)

ふく もと じゅ た ろう
No.46 福 本 壽 太 郎

昭和29年生まれ 球磨郡あさぎり町在住
現 在 熊本県シェアリングネイチャー協会理事長
熊本県森林インストラクター
森林セラピスト・ガイド
熊本県自然ふれあい指導員

自然とふれあう楽しさを感じ、自然から学ぶ喜びを知り、子供から高齢者まで、「シェアリングネイチャー」のアクティビティを通じて、心豊かな社会作りに貢献している。草本、動物、鳥、虫、水、星、自然の循環するフローの中で、自然の素晴らしさをわかちあう活動を指導している。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「シェアリングネイチャー活動」
「森林の働き」
「森林セラピー活動」



自然観察その他
(天文・気象)

さか い いち ろう
No.47 坂 井 一 郎

現 在 さかもと八竜天文台 台長

四季の星空を見上げる楽しみを伝えるとともに、気象予報士としての経験をもとに昼間の空の楽しさなども伝えていければと思います。

〈講演会・学習会テーマ例〉
「夜空を見上げてみよう」
「四季の夜空を楽しもう」
「雲を眺めてみよう」



No.48 権 藤 貴 士

昭和60年生まれ 上天草市在住
令和4年 ミューイ天文台 台長就任
現在 ミューイ天文台 台長

〈講演会・学習会テーマ例〉
「星座を見つけよう!」
「望遠鏡工作」
「流星群のお話」

一般の方々に天文へ興味を持っていただけるよう、ていねいに分かりやすく解説します。一緒に本物の星空の魅力を体感してみましょう!



No.49 艶 島 敬 昭

昭和24年生まれ 熊本市南区城南町在住
昭和57年 熊本県民天文台設立に参画
現在 熊本県民天文台 台長

〈講演会・学習会テーマ例〉
「星の観察を楽しもう!」
「デジカメ写真で天文学」
「星空・宇宙・光害」

アマチュア天文愛好家団体が運営するユニークな天文台で、楽しい天体観察を通して宇宙の謎に迫る天文学の最前線を市民向けにやさしく解説している。現在は、「電子紙芝居」で星座解説番組や体験学習番組を作成したり、光害(ひかりがい)をなくす活動などに力を注いでいる。



No.50 橋 本 建 司

昭和38年生まれ 八代市在住
元さかもと八竜天文台 館長

〈講演会・学習会テーマ例〉
「四季の星空について」
「四季の天体観察」

星の世界を「やさしく」「わかりやすく」「丁寧に」をモットーに活動。出張授業や観測会のお手伝いをいたします。



No.51 稲 葉 よう 一

昭和42年生まれ 八代市在住
平成元年 ゲームメーカーで企画職
平成10年 中学校講師
平成21年 県埋蔵文化財調査員
平成29年～令和5年 さかもと八竜天文台 台長

〈講演会・学習会テーマ例〉
「移动式プラネタリウムによる星と星座のお話」
「光学機器や天体望遠鏡を用いた星のお話」
「光学機器や望遠鏡の扱い方」

県内唯一の、空気で膨らませる持ち運び可能なエアドームを使って、全天投影プロジェクターと光学式プラネタリウム機で季節や天候を気にすること無く星空を楽しむことができます。

野外での光学機器を使った天体観測もわかりやすく解説します。



講師が現地に出張します！

出前講座

要予約

1か月半～2か月ほど前までに
一度ご相談ください

様々な講座をご用意しています。
内容については、お電話でご相談ください。

動く環境教室

環境センターの職員がご希望のテーマに応じた環境学習を行います。



UVビーズストラップ



リ・グラスアート

★主なメニュー

無料

- ・環境講話(水・ごみ・地球温暖化)
- ・ものづくりと環境学習
(リ・グラスアート、UVビーズストラップ等)
- ・川や海の生きもの観察
- ・ネイチャーゲーム

エコロジスト・リーダー派遣

環境センター主催講座を修了した方々が
体験学習や伝統文化の体験の場を提供します。



エコクッキング



竹箸づくり

★主なメニュー

要材料費

- ・体験学習
(食育エコクッキング、里地・里山体験、
リ・グラスアート等)
- ・自然の素材を生かしたものづくりや伝統文
化の体験(竹箸づくり、箸袋作り等)

環境教育指導者派遣

大学教授や各分野の専門家による環境学習を行います。



講演(貝と生活)



自然観察(ほたる)

★主なメニュー

無料

- ・講演会・学習会
(環境保全、自然環境、消費者教育、動植
物など各種講演)
- ・自然観察会
(動植物、昆虫、きのこなど)

対象 熊本県内の学校、公民館、PTA、自治体、企業、市町村などの団体

動く環境教室

1 電話予約

事前に日程を電話で押さえます

2 申込書提出

様式をHPよりダウンロードし、FAX等で送付

3 派遣決定通知

派遣決定通知書が届きます

4 電話打合せ

実施内容を電話で打ち合わせます

5 環境学習実施

エコロジスト・リーダー、環境教育指導者派遣

1 電話で相談

事前に講師との日程調整をします

2 電話打合せ

実施内容の打ち合わせをします

3 申込書提出

内容が決定したら、申込書を
郵送します

4 派遣決定通知

派遣決定通知書が届きます

5 環境学習実施

環境学習を実施します

6 報告書提出

学習の実施報告書を郵送します

予約手順

出前講座の

熊本県環境センター

●入場無料

〒867-0055 熊本県水俣市明神町55番1号

TEL 0966-62-2000(代) FAX 0966-62-1212

利用のご案内

団体での施設利用は事前の申し込みが必要です。

－開館時間－

午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)

－休館日－

毎週月曜日(月曜日が祝日、休日の場合はその翌日)

年末年始(12月29日～1月3日)その他臨時休館日

【E-mail】kankyo-center@dance.ocn.ne.jp

【HP】<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/50/51621.html>

【SNS】



発行者:熊本県
所属:環境センター
発行年度:令和5年度